
無題 1

悠月 香夏子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無題1

【Nコード】

N7135U

【作者名】

悠月 香夏子

【あらすじ】

気が付くところは檻の中。
私が、希望を見つけるお話。

気が付くと、私は檻の中にいた。
真っ暗で何も見えない。

——ここは、どこ？

暗闇に目が慣れてくると、黒い人影が目についた。

「あなたは、だれ？」

「今のあなたには、私が誰だか知る必要はないのですよ。
礼儀正しい口調の低くて荒々しい声が聞こえた。」

——どうして、私には必要がないの？

体感で何時間経った。

立っているのが疲れたから、どつとそこに腰を下ろした。
それから、目を閉じて考えてみる。

——私は、どうしてここにいるのだろうか？

学校にいたのは私だった。

まるで表情がなく、うつむいている。

重い足取りで向かうのは部室。

部員が全員木を切っていた。

私は自分の仕事に付く。

——独りだ。

ふと、手のひらを見る。そこには、こう書いてある。

『お前は必要とされていない

何調子乗ってんの？

どうせ目立たないのだから、

無理しなくていいんだよ？

バーカ。お前なんか

死んじゃえばいいんだ。』

正真正銘私の字。

私への、戒め。手のひらを見て、抑制している。

私が、私であるように。
私が、泣かないように。

それが、私。

言いたい事言えないで、言わないで、
周りに合わせて、顔色うかがって。

自分が前に出ても、みんな褒めてくれない。

そんなことを考えながら、私は今日も仕事を行う。

同学年の子は楽しそうに話している。

誰も構ってくれない、私だけの世界。

誰か助けて。私を連れてって。

はっ。

いつの間にか寝ていたらしい。

私は泣いていた。辛かった。

だけど、何で泣いているのか分からない。

「いい夢は見れましたか？つと……」。

あなたは何故泣いているのですか？」

「あんな世界、どうでもいいと思ってた。

私がいなくても動く世界だって思ってた。

だけど、そんな世界にこうやって泣いてる。

まだ、絶望してない。私は生きてる。

檻から出して。私は……。」

私は、言うのを戸惑った。

そして、唇をきゅつと閉じてから、言った。

「逃げたくない。」

「そうですか。それなら結構。

ここはあなたの精神の境目。

あなたの辛い感情が閉じ込めてあるのです。

あなたの心が限界になりました。

だから、あなたはここに来た。

ここで諦めたら全てが終わっていました。

しかし、あなたは希望を捨ててはいない。
人生なんて80年くらいしかないのだから、
死ぬ事なんて諦めて生きたらいい。

辛いこと、悲しい事はこのさきだつてあるでしょうが、
自分に絶望をしてはいけない。

あなたがあなたを信じなければ生きていたつて
ただの抜け殻です。

自分に対しての敬意を失っている。

どうか、自分への敬意を失わないように。

あなたの幸福を心より願っております。」

「ありがとう。」

「それでは、いつてらっしゃいませ。」

「さよなら。」

「さよなら。」

気が付くと私はベッドの上にいた。

もう夕方だ。どうやら一日中寝ていたらしい。

にしても、だ。

さっきまでなんだかりアルな夢を見ていた
よく思い出せないけど、私が、希望を持った夢。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7135u/>

無題 1

2011年10月9日03時51分発行